

武家屋敷通りのまちづくり整備

概要

本計画は、長崎県対馬市厳原町中村地区での武家屋敷の歴史的景観を活かしたまちづくり整備である。

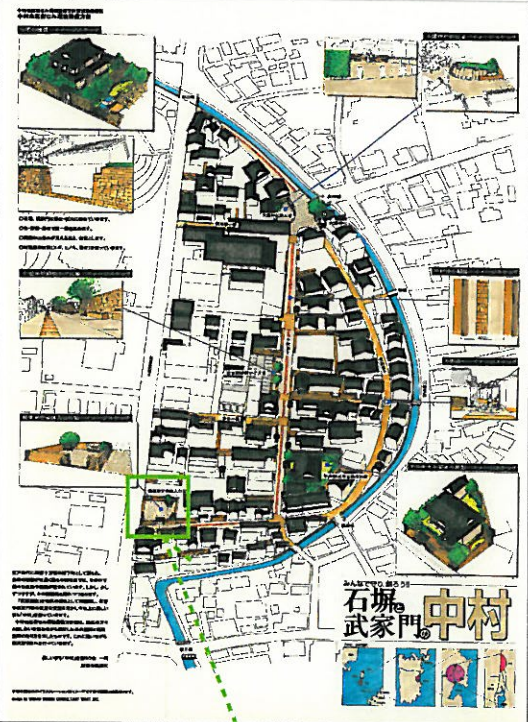
中村地区(面積:3.6ha)は、江戸時代の城下町の町割が残され、当時の石塀や武家門など数多くの歴史的資源が残っている。

平成13年「武家屋敷通りのまちなみ整備計画」  
(住民と行政との協働で構想)

平成15年「厳原町中村地区街なみ整備事業」の承認

平成16年「中村地区街なみ環境整備計画」

- 整備の目標  
城下町「厳原」の石塀、武家門等の資源を後世に伝え、個性と落ち着いた美しい武家屋敷通りを協働で形成
- 整備の方針  
・武家屋敷通りの整備  
・小公園の整備  
・生活環境施設の整備



中村地区街なみ整備イメージ図

石塀と武家門のある小広場

整備概要

位置づけ

石塀と武家門のある小広場は、『中村地区街なみ整備計画』の整備方針の一つである「小公園等の整備」として位置づけられる。

整備目標

- ・武家屋敷通りの導入部として、また住民や観光客の憩いの空間形成
- ・石塀や武家門等の復元



石塀と武家門のある小広場計画図

整備方針

歴史的地区への入口空間を象徴づける

歴史的地区を象徴する石塀と武家門を復元し、城下町の町割が残る歴史的な景観をより魅力あるものとした。



①武家屋敷通りに復旧された武家門と石塀

隣接地との調和を図る

幹線道路である国道382号(馬場筋通り)から広場内を見た時、広場に奥行きが感じられるとともに、隣地の石塀、庭木、住宅と一体となった風景となるよう、高さの異なる石塀を配置し、周辺景観との調和を図った。



②隣地の石塀、庭木、住宅と調和した景観を形成

歴史的な資源を復元する

石塀・武家門等の地区の歴史的資源については、できるだけ忠実に復元するとともに、井戸を復元した。素材についても地元で産出されるものを使用した。



③武家門の復元

④井戸の復元